後選集

下

後撰和歌集巻第十二

戀部四

なりてふつゝ八しらる

つゝ[illegible]のゝすゑかゝ人八あるなのゝ[illegible]

忘れぬらむめゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

宮内庁書陵部

玉藻なるわがふかねとうるのそこ母とうとて入給
ぬるもなほうれハ又うるおてつかハしなる
みうるめるるもあるを海乃ふかなてうるとうるつぶ
あるふ人をなるる地とこる

よるべ人しる沢

ふるるなの海の白波立をてたるるるうるうる
あひとうてなるるの人のあるふるうるうる
ぶこてあ河の橋のわハすたるふるしるを
ぬし

近ハ人のふるるるわなるの外をとりびなる
なるるるかるる地とこのるるいるハとるる
るるるるぬしるるるるて

今ハとてこすを思ふるる方橋の
ぬし

宇治川

高るを道と方橋の叩を
よるひるる女の叩みとりてぬるて

源巨城

新ふるみりわするとなるの
よる人しる沢

ふるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

たの中の玉水をくんでふさうも物のうるせうり
はりかけて行てたとこうのりとふつうしるる
あま雲のたゆたひのく浮物ハ神のあるて川の竜
のつるふうとして地とこのこうりれと
あつまりのこうとうて来これハ地りのうとふうて
あひうたいしるる人の人のくしこうつれいはう
もしり外面
見ハかとあのしこハまつれのうきてきてれ
見しり沒
こうあるる川のうとかひうのさみとうのなこのねハ

如りとふつうとうる
後生の見ふきうすう神はるるるれ
ハし
後のえのあるはのかあるて後の教ともしもの地
つかりるる人のりとあるつうしうるる
出て人とうのうるるさハうあるも高し蓋小
うへ
とうあひうんのうるるハかるる様ふうるる
ひいしり沒
あうとうの形とふうあうのハうるるのハ地と

[illegible]

[illegible]

[illegible]

浦なしと海のとくするといふことはいとうれい

平中奥ゐむすめ

是国のそこなの山ふかくハ人ハ毎とそこなとかくてきるくん

あひそこなてはなるかのまれなのこみえなれハ

伊勢

思ふてもうけふらあるこハ思ふてもうつつてもかなあるやうに

ふてふハわすれすはそこなとハいひはなるあるやうに

うとハすはなれハ

源人しの

こゝ国のれなるこゝ帰とこゝとハこゝ

思ふ

はなるねれのみそうる海のこゝとひふハ粉こゝのはこゝ

たゝみうるこゝあるこゝとこゝはなるこゝ

こゝしはる

水こゝのくるこゝ浦ふ年こゝてかこゝよりのこゝふこゝ

思ふ

海の糸浦ふハこゝあるのうこゝて一ふ浦年ハうすふハ

せこゝこつゝしるあるのこゝ

寺こゝ思てのふしひはなるこゝ

はるふるこゝあひこゝ

こゝあひこゝ

つくて行方
流るるその白波のなれはてぬ
思し
[illegible]
[illegible]
いとしのひてかくて人のとるるなりけり
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

前参議成国

[illegible]

中務

[illegible]

[illegible]

[illegible]

歌し

今はとて梅の花ふしきるの花うつるを見ては行くんとすと
人のしるすいとをかしひ行くるふかし
きとくとくとゆやのりうりれて立りるるの
はつかしくはる

源しとうり院ゆうの人あるないつ雲とのあるすん
まとわ人院行るゆのりとるとねとしいて
りれハ歌るるとやとうひ　いとうるなる
たつかしくはる

ゆうとうとうのしハ池ゆとを見とのゆ月人ふきうゆわ

ゆふつかしくはる
ふとうのあるきうれハ名ゆのとゆ見とたとつる
歌し
りの見ともゆるゆふうゆゆとうとゆ月ゆとれとる
せとそことしくつうとしくはるとくはて
せいしはるれとえゆひはて

源しとの歌　善
あふとふのとるとるえ見とるみとあるきとめて恨ん
春澄善縄歌人女
歌し
あふ行のまとあとうとゆるのハ迫ひてんかるとれと

世のなかをいとうもしらぬ

よしの紅葉

[illegible]の山ゐのこゝろをやさしうつたふ

[illegible]

[illegible]

人のなかをうらやましがるつくる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

たいしゝ沢
[illegible]
せうとこかよりゐるゆゑちうるるさりふみく
ゆりれて
[illegible]
ゆゑたのハしゝゐる
かゝゆゑるあねとひのいるれハ流のゆゑとうるとりゆゑ
人のりるゆかつてあしりかつてゐる
ゆゑてゆ四ハすうのゆふ場りあてあしりるものとなん
大ゐゆ雲ゆかつかてゐるひゆらゆゑとひられうる

成てゆるうれるゆふかつてるるいうをてゆくう
ゆかつゆゆるうゆふゆうゆゆゆとひ流て行つるよ
の受ゆゆゆてきゆゆうとみゝれいうてうひる
つうゆゆる
てうれうゆゆるとゆふてうれて沢ゆゆる身ゆゆ
かつてつうゆゆゆれハゆ量えゆてゆゆと
ゆとゆゆひゆゆうゆゆゆうゆゆゆゆ
ゆゆゆてゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
りて行れいうゆゆてつうゆゆる
ゆひゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

[illegible]

法華経をもつて[illegible]

[illegible]

[illegible]

しるる

いつしかの[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なかてふ秋のゆふべの心ぼそさ
よしうの新庄さまかわらしやちうこと
あつまのわしたかつてしる

菊岡侍

いろひてもれぬこゝろかはたなびきかすみ
ものひてまつりあてまつりあて

道風

なかてあふこゝろのほそのよの新庄の滝さ
拙いんてまつりあてきたらてもれ
こゝろ作りあれいかてやうねいひいてて

作りあれて
かつらをまとまつり候間いつかはるあるやあつん
大伴

忘し

濱川いるの新庄のうみてもあやしうと
大伴つりてつてしる

新庄新庄

池水のいひ出る事のうるわしみことのかつらを
作る

後撰和歌集巻第十三

戀五

題不知

いとのあるあやふかりしもかりの浪うきてしらるるみん

必し

佐京業平朝臣

枇杷大臣家也

諸本なし

胸中のあまのうくいとの海人浪たちぬるかなるかな

つまのくんて作る人ふ　よしゝ人しらぬ

つとしらいひてはなかの人ふ人をとしかをとふを

たいしらぬ

あかつゝ人の名をとふ人きふ高の名をかるしかける

拾遺物はまてゝ高の名をとれかあ親ハ流るゝ

如のうゝをこせく作れハうゝ出る

ふう御母

京極のもの思ふ人ふ物をとれとふ物のゝ

わゝるゝ事をこそあひしるをそ人ハわるゝ

えゝ物ゝ人をとうたうしゝ思ひしれハ流ゝ

でしゝる

源人ふ知

いかとのくるる人の名のくうんのあきの秋を待ん

新しゝ沢

小野小町ふあ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世のなかをうらみてえあらそひてつらハしくなる
わハてのこゝろをのゝしりとうるさく人あのこゝをきゝあつかはるまゝに
世のなかをいとふ男ふたりなどゝ
きゝていふこゝろをつくしてなる
あひとりとわらはをなをなりのしるしにもあらぬこゝろ
世のなかをうらめしくきゝてつくる
移ふるまゝに人こゝろをもてあのこゝろをふこゝろをとゝ
ふたつくしなる世のなかのいとをしまれてくるたく
こゝろふかくなりなるつくしなる
いとのあるとこゝろのハなのくらハ立きかふこゝろあるこゝ

一条ゐんのいとゝしきをもしらしめなりたる
それハなをのこゝをうきてゝ　一條
あらくハなをなりなるなるなるなるなるなる
　　いせ
なをそれハいとゝなをまとゝなるなる迫なるなるなるなる
人のもすなる君ひてかゝしい給ハるふつゝなる
みて給それハせこゝをわるなるなる
　　もと人しる沢
人をのうきをりこゝをとわるを苦なるかくの神なるこゝる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いとのあるかぎりのかぎりとひろまる今はねるふるひあるとき
わさらの鈴たてそ法もうそこかすて法るる
なりてとうとうとうるまはいとひたれねとも好
りて久しうのつふれはいとまよいひつきてせう
そこうやたのつふれハ　本院のくち
ゑれはいとしかるふるたるとねはつき物ふるたるる
ふこと人しる沢
ゑ千和てるくゑてこるるも四ちるる法るつき
ゑ
ゆふみるるるるたてるつやしハ春乃つれてるる
いせ

ちたてくちうせこ法るるかふ法る
ふしるる　さてすものみこ
姫の鈴ゑ和の元色ゑふハうすき神ふも源ハるも天
ゑ　ちた
和宮の末ゑ源の元色ゑふハ天ゑ神ふ法ゑるゑ
なりてくちはるるるるるるるるるるるるる
ハ　賜大法ゑた
ふるるるるるるるるるるるるるるるるる
はるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるる

つゝそてゝ行ら

人ゝのこゝ根ら〻ゝハ白ゝ

ゝ見ひゝら女ゝ

芳雪の山ゝ

昔の三位ゝ

海ゝら四ゝ人面の出ゝさハ

地ゝのゝ

てゝ

いゝのゝ

ゝ

ゝ

公卿殿上人なども参りあつまる世のうつりかはるにつけて
なれば
かうて人数もしのこりすくなくなりぬるこそ
悲しけれ
人こそ世にあるかひなけれ
悲しかりしかばかりの人いきてあらばこそ
てもあるべけれ
きえ失せしこそ
かひなけれ

寛法法師母

もとより人しれず

少将内侍

人なみなみにもあらぬ身にて侍りしかば
人にもあらぬ

兵衛督殿

世のうつりかはるにつけて
世のうつりかはるにつけて
悲しかりしかばかりの人
きえ失せしこそ
かひなけれ

陰人右衛

別れ
別れ
つるかりきそ
てこそ人
なれば
きえ
なれ
なれ

たゝんとしてゆくすえ
　　四位少将こまの
　　大納言つねもり
　　たゝんと
　　中将
　　たゝんと

　　中将
　　たゝんと

　　たゝんと
　　中将
　　たゝんと

　　たゝんと
　　中将
　　たゝんと

　　たゝんと

[illegible]

也し

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かくとかうふうきをもふと物を拾ひ物をするの如しとしるべし

人のりこまかうしうるのうしろ

ハらるかゞとすれのりまひしをかるる

うしろやうやうとひいてはなれ

ちと人しる

いまわ又人の知と知るのたくあるとあ神のうしろ

人のりこるかうるをわうそのうしろ

きとみちうういひけうる

まるのみちうるをもかるるあるとこ

人をかりひうけていひうるるとうら

とうるめこ行れ

物のをかるるわれもおのの月をすうるを

ハしくいひうるるつまるのうる

ハれ

なのあのくわうるを行ふこうわをを人ふをうるん

ハし

芸生のうるをはふをひをふうあかるとはうみうん

ハしをうをハうるかうる

よこ人をうす

行海てうるハ変る山をのこうあるとをを

也し

山ざとの雪のふかくうもれゆくはしるものやうくん
かくれいうはすれてるみをくるかれてる
あるまの心のみをはをはを頼のもるさねあるそうん
たいしゝ沒

かうれ雪流の川のあるまつあふあふの海を敷もし
あるのうる百人命まつふしるる
雪ふれとうねとわるつる神のはうるをひるかくるねやすそ

也し

あはうるねるん神のはうねはるる功ひかるあるさるすさ

如りるまかくるるたるかくうくれい
みらるつうるる
るるもはるふるそねるるあるみらるるき夢りて
雪ふるとさうるすまそきふみそる和るるるとし
りる井とこの門るるるるそあのいるるね
まるとるるかるするるるといひられて
かれるもるるるみしはるるりのるひるふ施ふ雪ふるる和
人ふるるすれそねるるる付
牧ふるねる月はるるるるんるるるるんふるるるるれ
かりしるれふるる人のるるるるるるるるるるるるる

又ものいはんとみるとて言葉はかりとして詞ふまうやてくる
也し
詞ふるそまかやたうれあるものくもんのくるそこひくるだ
鈴緒鈴屋のものるとつうりくるとこと
よいしつけそくしうなりて社そうひて行
くれて
いうてふこうてあんなあるものあるとて稼ぶ今ハなるとん
地とこのうれりそあるとこれとこそあひそうて
行くるけるの宮乃歩へまかりくるてきて
てつうりくるる

あるとなるきくきくきものあるのつまのあるそそそかりる
也し
つまそあるなるてあるのあるのもあつもるハるつてそ
又ものいはんハしけ
ものくきそもきるるあるのつまよかれるかあるも
かへし
くるくもあるとふるとて言葉のくるとあるとう流
かれふくる宮の歩りしいなてすそそそ物
いしあるうるる
かつくりもくるくるふるるすそ宝稼の中くるてすうるる

也し

中絶てとゝまるかのこゝろつきのくもらの橋はしとゝあまし
たゝるきゝぬるもきゝてゝるゝ如しとゝのあるとゝ月わう
きゝる行くゝとゝてわかるひとゝうゝとゝる
つゝゝ川なる　前参議
白雲のみなる一村るみしかくこゝ生てこゝとゝひとゝあてき
如りゝる　はゝとゝしゝゝ
よゝゝ人しゝ
ゝゝゝ風ゝゝゝかゝゝゝ

人のもとにまかりてのち　よみ人しらず

あるものとてもふかくのみこそはなれ

返し

ふかのりのこゝろの深さは根をたゝしてよしの川波

こゝろもてきて恋のすがゝ　拾いしは

かくのみわがなれはふるかわかくれ

うきもとはなれぬわがのみわたるなり　拾ものなり

物のもとつかへる

うもれぬこゝろたゝしてたゝしてふかくこゝろもてつれなくこゝろん

返し

根をとゝのへいとゝ雲井にうきもとゝ人をえゝふかくこゝろ

いひしらぬこゝろ　人をえゝふかくこゝろ

又つかへしる

こゝろにふかくこゝろ　人をえゝふかくこゝろ

返し

こゝろにふかくこゝろ　人をえゝふかくこゝろ

たとこのまゝにすき　人をえゝふかくこゝろ

いとゝみこゝろ

くるとハつゝのすゑ　おろ〳〵なこゝハたゝれ　ゆりのゆめ

ゑし

おろ〳〵ものわすれ　日のすゑ　たゝるまてハうひ　ものかり

ゆとこゝ　久〳〵うと　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

いゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

かつし

たと　今と　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゆと　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

いして　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

絶ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

いゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

月の　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

つゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

題不知

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

つゝしゝる

かゝる人のこゝろにはあるひのふわいてのこゝろわ白ゐれ
ゆゑひとゝるゆゑりてとゝるゆゑとゝりやねとゝゆ
とゝゐれハ　　おなじに

小山田のあるゐるふかくハとゝゐるれそもハとゝんゆゑ
男のまゝこゝろあゝとゝゆゑあゝゆゑのゝゝゝ歌おゐとゝ
山ひふつゝ川とゝゐれハ　　これ歌の意にあいまさ
月ゝふまつゝ月ゐくとゝゐれハ白ゝとゝふにゝゝおゐゐゐゐ
神ゝ人ゝつゝゝ計ゐ　　よみ人しらず
ゝひつゝまゝゝいひゝあゝとゝ白ゝふゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

いひとゝひゝゝゝふゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

いひてそらてゐるうゑのの浪いりてふとひとりそん
地すれすれ行くるる人のとふん行くるれていそ
はひくるをいるるゆうかふあうりんあうるる
かつそれたしくる
ちれるこう人はねをりてこちをりしの中ふりのとハ
人ちをハ気とれりてを人ちるん行むして
いひて行くれし
あふハうるそのこうる我出せ人ちふうこる後ろさ
たいしし
立春身ふるうとをつうたうふうすき気ハうみすれ南

いうふしてはるかてこれ郭公のきのそふふるはる
とつて郭ふるる年をとるふてるれるれ和ハ気ふるうう
ふうるとつうりくるゆのこと行とふつを行う
ふるふつうしる
海ちそのふ
雲のる人をそうえの岩ふてるふとのかを恨つふ
そのふうれかるるうう行くふれハそちとき
ふる弟をつうふて
ふそ人しし
ふうり水ふうるのみくそあれもふえをとちるふ
菩提寺のはるいるる花きうるのるる行るるあふかしし
行くるはこ中たくそくそ行うくれて

すかそやかなる里のあれしうら曲ひしく人のわとを絶かき
世の習といとひてさみすらいうくれわしくんいとなる
いハゆる神ふとわゆ神中の雲井しるふ物とりなる
也し
ふるそわる神ふとものにかたりてよの雲井ふ人とのて
世ふらのみとる　わつらのみこ
うきをのみ心閑をふさハくみるをハのそこの雲ふあしとを思
又とうらかひる人のをのいとをて
花ふ寺文
花ふのこうきこあそきこあるを物うこあるふわしを

世とこのりをふるをかてをかくをかてをかれ
こをうをそれハ　をそ人しを
うてををとひしををこうをふかひるくをのをうふくるふ
也し
ををあのこあをこあれをこをををくいうくをてのをき
世のをををいをいをくをををくををををしをのあを
こををて作をれハ　ををををを

人こゝろをまつふかねるこゝろの月ふかくそわるむつれなき
思てすゝ行くるる人をとゝかくれなき人なる
みとのしいてうくれハ　元方
高川さらるハ雲ゝ雲とれてこいいくもの雲いハしゝ思
宮多流ゝ行くる人なるせゝそこつゝくるゝ
を行くさうきれて　ゝゝ人しゝ
うゝ雲ハみゝゝ山ゝ雲るゝ雲ゝ雲ゝ雲ゝ雲ゝ
如五のみこ
ゝし
みゝゝの山ゝゝすゝたゝふこゝゝ雲ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
つゝまゝく行くる人なる　ゝゝゝみゝ

こゝ流てゝねゝふ津ハゝゝゝゝとよのたゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右道

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いとそれてかなつにしの白ハいとねふかきふ和ものをもむる
たいしゝ侍
よみ人しらず
人のふかねの雪ハ新ぬるものゝそてをふるゝて
白ものの白つきゝとそなるゝす
世中ふかきなの月のくもてをとハねつゝ
ひるまもねんなりとなのいひしるゝれハつゝ
在五三詠本同
あすの月をそなしるゝ
久しうもかりかよハぬ月しゝ
うゝ君のすこしうなるあるいひ侍
駿大納言
あはの関をゝ侍ぬ
右近
ゆ
ゆ
ゆ
ゆ
ゆ
ゆ
ゆ
ゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後撰和歌集巻第十五

雜二首一

仁和のみかどさくらの花のもとにて人々
酒たまひける日　左兵衛督在原
さくらのはなのかげにしをれぬるかな
ちるをのみ春とおもへば
うらもなくいとかなしつる
なにはがたみじかきあしのふしのあひだも
あはでこやのねをのみなくかな
きのとものりまさうせける時

[illegible]

[illegible]

[illegible]

限のさとしの法のつかさにて三月のうつりもとのやまの中をみやりしてゆくそこ　まわ

業平卿に

住馴し今は限と山ちかつかぬ丸
ゆくそこうりるかいしひとのいひ行
るはしまる　みやこ

三熊の山ひくるこゝろの人をわすれもの
すみかの中に人のこゝろしりわま
いとゆのつのくにのさかのくにに深き気六尾に深つ
ゆりさはいまこしきこのこゝろ川の名よ

まかつこゝろをなくしふこゝろ　中務
行て
白川の流のいとみまわしたれてみてゝふ人とゝもしかと　とし
也
白川の流のいとゝ乱れつゝ人をこゝろ人しれぬ
そらすのこいとゝて　しる人しる
蓮葉のこいゝて人はこゝろ人ふかく
あつ枝の葉ふ底を明てすゝ行ゝる　坂内
明ふ人こゝて
こゝやこゝみゝとゝ為ゝ別つゝる　坂内

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月の夜のしらべにうちとけて

[illegible]

いのちなりけるみをつくる月の光をあらためて

[illegible]

やはらぎとこたへたるさまをうつしたれば

前宰相白うもすれば

悔しくもあはれなるかな

大納言殿のたまふ雲居なる人のなかのうち

[illegible]

[illegible]

[illegible]

しそゆひて又こゝ[illegible]時よりありてとて物のうみる
さうをきて出ふるるのちつゆあきらのみこ
まうかくされて月日久しく侍てわすれ給
ようなりてこゝろをえ長のみこふ送ることを

中將

わすれなん名ハいとうの人御ゆくことをとゝめやりつ
忠房卿ゆくみちにて新月をうたうまう
ゆる所にて[illegible]の月の若あるを有く
ゆくかたをさしいでるかたちなる

ひてみる

ゆくすえのみちのくハ遠りなりてこゝろ苦しかるべき
わかいのまうとと人の行ハてこのりまうて
きてのこゝろ　兵衛督殿のわりこの家にて

みつね

ひき物人ハ[illegible]ゝ老ふれ物のこゝろくつふかりぶ

人のもすあふぎをきらすこれをめのと
雪ぢていとしうさいしはれはいとひかるかく
そうたるひらあいてふてもとしてゑりて
いきられはかりのまつみけあまかつるりれく
つかはしける
めのと
小山田のはるかにみとをいとしくふかとてをふ
三位なりたかのあそんかてわたりたまのおとゝに
やしあるときこえて所をのみこゝろかけする
むすめのもとに
いそのかみふるのをぬけるをのかはてをるやふ枝てをるへく

このあひだ所をいとまなくふあしひかりと
聞てつかはしける
所をのみこ
まことふりてのこゝろをとしはるもやすしふくはひね
廣明朝臣中納言ふるのうゑはるのさくら
つくりすして
おもふに
こひしきあまをとをもうてこゝろ
廣明朝臣
はし
おもを野にてをれはかさしとひとをねを
ゆきたてをるの井ものをとりてたてて大伴宿禰
をてきたりをれは
大伴

[illegible]

[illegible]

雅正

[illegible]

[illegible]

大江千里

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

七條后

いせ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

女のあさかうしいひそれと　あさ緋の新尼

海あまの尼あこの八うねさハれ物ハ[illegible]ぬれきぬふきて
あひかてこひしる人の家の松のこすゑのとらも
さそうらうとうてて
手をとりて牡むしひのしきうるはなの母をもうらめ
思れ女のふみをかてしるをえらくれとめて
うきつをはらる　　尼修行長京安
角そつる人の心のうら松をあはとうきうる
節しるの新尼かしの家のそのつうしよ

まかりて二年といふとし尼尼のハかるすまかり
あのうつりをさうしるをさうしるのふかれハかる
事ものとさうれかりるのやとかぬしをと
うれしとそして待りるこをハ必ものうる
うきつをそつハしる

源仏忠新尼

玉ものをうてもあつぬ天の月をあけかのかるやあるとと
四し　　常盤新尼　ひし
あしかのかの○ふるのハ玉ものを月の見よのれるのうう

後撰和歌集巻第十六

雜五首二

思ふ心あるて前を過たる人に

五条皇后宮

物をもいはぬ山吹を折て侍りける

藤原ひとし侍りける

うらもなくいはぬ山吹の花ゆゑ

いはるるものとみるにこそ

まことにうるはしきものとて今

人のつをはるれいとしてつくりたる

そこゆきの新院

おなじ御時にあふぎのもとをあらすと侍りける

前中宮宣旨

出てあるふかの高くこそあらねいはるる

いはるるはるる

宮内

ふるさとの新宮を今とはあれ

鶴内侍

思ひしの新宮を過てこけぬ(くハ)

かつらぬ初てしてしてはいはる

いてあひて侍りけれ

あつたの明行母

ちはやぶるものの原をあらそ水くれを

なほうん

人のうしとかうて行くるまちかはれいし
つくハしまる　　閑院のみこ

つのの日まをうしとやはるかの風をあの今りし
延喜御門時ハ茶の日ハあるてきさ
つきとうこの　　三条おほきに

かてそのこたいつきあるいあるかるの祇の和代どらん
はるすの時きこのの行幸のみこうとうすて
　　枇杷たちに

ここうとらくるの世てふ幸とうてりるのあきを行そうの院
戒行ふうきく山寺るこうりはるふこしく法

陽ようてきうてあるこうあるて行りる
　　よこ人しし侯

いつれとうあるるりるかん山うのあの川るの風をうふ社れ
　　をうれあひて行和るうこうてつとうをく
　　ア行りる　　前中納言

とひふハ法うあるをとうかるかきしとあるきつん
　　ア行りる時ハ高
　　ア行りる時ハ高
　　とうかひてハまひ
　　行りる
　　よる人しし侯

めつりも苦のかるの山の井ハ山川るかをとうとてふ
　　りる

宮殿のあしかるまじきなれば人の作りたるまがつ
み

大江興俊

うら川の浪ふるなかれ天平の世の秋と紅葉のうつろひぬ
陸奥のみちのくに関はなれ川人ふあるまさうそう
さうを作るなるなるそう　小武あのし
宮殿を作るとつくりたくきこゆるこゆ秋の月いとそのは
返し

大僧

知らで作る秋の月を山にはつるはるとしるとも思
地とこのうんなるくうきをとしいりれば
もえ人しる

そのうえ作るの人数の京のあるあるあるあるかくかくすん
くるのさうをしてこゆるこゆそしてもえ作るる

亭主御はいまわこそうる人

苔むすいまわこそうる人とともやこそうん
花とこそつきそみちのらふくもするとつくそし
あるくるるるるの花とこそ知るるたるときうて
知うしと地やのいひつふしうるれば

もえ人しる

雲井のうるるるる作の京をとはいるるあの山そうるそん
返し

女のうる

わが宝のうちにたからもとまりしかば
たまきはるうちとてうるふねをこひとりこれば
そのふねよくしてつくる

とゝゝのみこ

風れば波やはかなくよせもなし
延喜御時ひしをつくりてたまはるとき
きゝ〳〵ぬかつゝしてすなはちこれをする
まいりてたかやまうけしるかたをうけ
そしゝ計歌

弓目の弱ゝとそくおつれてたゝるくそ山ハ高えつる

うせい法師

ものひとりてわかそしゝとそ大和のつゝ
ゝ

前東勢殿

ゝ

かなしいかゝゝきあをを万代ゝ後ゝ
あれの方を神ふうけてきゝ
ゝゝゝ

ものとゝ人ゝ

歌ゝゝて神ふうれてたまゝぬハあれたゝ度の花ものを
あゝ木のゝゝハ如来命ゝ南殿ゝさゝ
てゝ川をうゝるひてゝうすをゝ知ゝ

くゝ人すてらつとうしてゐるとうしてゝ
ゝ　ゝ　ゝ　

うばの母親を
あをきてふまうれる枝をみる物をけさきすといふかりなる
浮舟伝
うろうなるのうくるをれハこゝらちらもあること
これれ物のけるまわりてあいしひるとしける
よゝのわるもの物やとりわく
もえ人しる
ものわみめのまうの物のうをくハりていまんとひを
井こゝのあいしひるをさうれハうるめ
あるなつうしる

白浪の打さハうれてうらしうハ方をうしなをて袖ハぬれ
ぬし
うりわ浪うさハうれ打わ浪るあるなる袖のぬれ
さいしる
たちら先ゝまうる方ゝ迄さ夜の間とあるとしらも
うりたちの久しくわハうるるまわうあ
いてうえ行る
わるるまふ迄ゝきりうる色をうとうれきふぬうるを
新しる
いるるとうあいるの紀えんうるをれうも方をとうるハ

人のあふかをしらるゝ人のもとへ行く

雲鶴法師

なるべく人をこそ世中ふるまはねゝとてるゝ

世中ふるまはねゝ山ふかくなりぬるとこ

ろの花とこ

山の井のきよくあつかりける

ゆえ人〳〵

ゆきのこりて安芸あさくなりぬるみなの井のあ

ゆきのこりてとこそなりぬるとこそ

ゆきのこりてとこそなりぬるとこそ

たいしの

物のあはれをとゝてゝ吉野山ふるさとのさくらを

見し

吉野山ふるさとのさくらをこえむのゝきの物はそゝ南

陽院のみうとゝきくとの井ふさゝゝ

ゆきのこりてとこそなりぬるとこそ

物のあはれをとゝてゝ吉野山ふるさとのさくらを

見し

つゆ八しなくなれハ

源人原知

新院さ河のわしの毛うふ帽をかぶる人のさらを
世のりとうこうとこをそて行さ色をする
ゆすると八根こるまそたくのとうる山の高八りこと
むらし地すれるこ山やけこし作さるあの
地とこうつきて人の面ちあらるこうさを沙
つゆそ山わうさ人すれいいひつうりさる
遠近の人ち稀なる山美ないこあるを見と八之ひきやかそ
かくし

身を見て人しきぬとを思に雲の八を別山あるあ
地とこるし作すそうの山さること
見給る世をむらしわひしそて行さ人
みちをかうるつゆそるひさうきこ山こ
さうつをこるかうといいわを作
なれハ

おた

わこの水ふ世ゆうきをと思て海を来八ふ色
山さる作うさるもうしわひこれる人の
いりうこうふハすもひたれし

閑院

きやこし袖や移久地わつるうけの行をこうを
光八

たいしゝ沢

世中ハうき物のわれ人しるのこゝろかくふもまこと山てくるま

もえ人しゝ沢

民部卿ハ神ゐ月をあるしらしらこゝろ出ハてこゝろ

いとゝふてこゝろるそうりる沢人のとうそ

こゝろれハ

土佐忠岑

月あるきの夏の夜ハ物ふかなきて問人のるさ

るこゝるはうしゝ沢る女のあるこゝるる

ゝこゝろるれうくゝそこゝるこゝるのこゝふ

かけていこゝる

いしゝ沢

いせ

嵯てふ山とこゝ山常のこゝるのくふかこゝるる沢

ゝすうるまこゝて沢るみこゝふ海川のこゝる

こゝ月をこゝうこゝる女こゝ海のあこゝ沢こゝう

すこゝれのあこゝ沢こゝうこゝふみいれこゝ沢ハ

あいこゝて沢こゝ沢ハ女乃こゝふくこゝ

こゝふこゝるのこゝこゝて沢る事沢こゝてあいこゝる

てこゝ七年こゝうこゝるこゝるこゝるこゝる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人のつくりたるなかにたのしきあるべきものなれば
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まもるかとわけはさとふのこゝ行て
なゝせりる　　秋うるのきこゝ

あるものゝこゝろをねる秋ふハ月のあかつきねぶかてゝたゝる
世のすゝとゝあるふきこゝゝゝ

うゑたる小松をあるひとの尋ねて

也

山ざくらうゑもとめし色ひとつ

たゞ猶さかしまつの影にのみ

しをれふるとをりてしらるゝ

ふる雨

遠ちかの野のかぶら菊の山ふかみ人もあらじと

也

そゝ色の雲ぬ色月の山ちかし

いひもうでのいとゝ人なつかしき

よゝ人

いとよのたゝかねの聚あるもの

たいしゝ

なかめをわひ色ふるまつ

いせ

かつらもとゝりゝ

ぬきとゝかるかゝ

題不知

よゝ人

浪動まわ月のかゝ住ふ

つきをたゝうゝ

いとしのひてかつしひ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人のりてふこつかへしまるれとこ人ふらみ
りうときてうゆつふしまる
ふるゆふてやりなこゆ別の海ってそうの海ハ流れ
つこーのふつ川といふ所ハすこしはなれる大武
前系無花鉢花のまかりてうついてる水
主人ってそうりうそこひはれハあるとりて
いてうりんはる
いりきの姫
年前ハうゆ無花と別のこうハ種ってこふれる
かつこ花たくさんこのむかりんはる
ふてくるはりるあの地とうるのらてかるゆ

あるうんよいひさうけといいはれハ
貫うく
かりうるたふあさハまりあたんれかるとのもと
たいしこ
かりうるたふあさハまりあたんれかるとのもと
如のりてるふてつふしまるとりりりて
てのらくハふてとりりりてそうりうんてとくんの
つかりわく
よりんしこ
大文ふゆきふるの雲ってそんのふらぬとしあも
きの弁るはりる地とこのまかりかるハすのうる

それハかの地とこのあるのりとふうれいとこそ
ゆうれいハいと心うきものなるといひつゝし
あるべきなるべし

きのふ見かのうきの浪ハ実なるかなこゝろひあるとまつら
すえ行るなるべしゝ行るをとりたら
ゆうるなるべしゝとなりて見えくらあふは
てきたるゝ見えくらあまりうるわしせん
としてまかり地そ行るるとっの家をこひ
けふ行るれハ見ひて来ふいひいれ行るる

つゝゆく

浪まのこやれるゝ地をゆれるのたゝ橋きわるのたゝ橋
地とこのあるまりてゝ行ゝとやハゝわるて
まゝてきたるゝをゝ行るとるひ
ことと人なるのゝ列ときてしハ海とすとゝく

よゝ人しゝ

海のゝまゝかゝとゝいそゝハたゝかゝも紅ゝまゝん
有如のみこのゝられたゝやゝそゝらゝしのゝる
ゝるゝ有ゝ長ゝまゝあ行ゝきゝて行すゝをゝる

長延法師

ゝいゝの橋やまゝんのき人の佛ゝ行るこのみゝハ君

[illegible]

右大臣

[illegible]

よこ人しらず

いつこゝろとなくはなれぬ世を[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

志延法師

[illegible]

紀明のみこ

[illegible]

業平朝臣

大井川うゑしのかゝ[illegible]
[illegible]

よこ人しらず

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

みちのくにふまれてもうらみなき
毎の花のうれをみて少をうく
つもりてはるのらくはしらふく
まかうすてるものさきの花をうしなわて
元行て

うし時ばかりやうやくみ夏れてあひうらふ
うれとふかくてそのかをそれてしみ
りける

うえ人しる
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後撰和歌集巻第十八

雜二首

[illegible]

[illegible]

りん世のなかをきもいとなみてわやく
とうねさうなるなかにしかれハ
みちのくにてうちの弱とゆうふハわれをまれなるものなれハ
中ゆくて四ちうにいたりてあひたるものあ
くにんのさうしをつかわやるく毎ごとにけを
しとさせて行くをゆるして京にてハ
まゆりかうこの世のものとうこまるひけ
とをこせて わりなるものをいしく行る
也津ま
源若殿に
いつくにそ見るうんをうつ秋むしの我のなくる

なくるもつきて人のくにの京ハ行て京ハ
久しうふかうのうちさうをかけるあ
つくしうる
みんしう沢
わきしとふ比部の殿のあるふ間人のね
ゑをきくに行くに人を京ふのうちたう
しとうて わひるまうてきたるかう
ゑをうくて
いつくにまうちのゑの梅をまうてるふ河う出るさ
きいしに
いせ
ゑをうる門の神とうるれハ京ハうきぬわ
ゑ

かるた

人のもとにてねられるこのこをたれをこなの母とはしらん
はてこの人ふとわれをこのこをたれをこなの母とはしらん
わるとしてうりれい

行平

[illegible]
人のもとにてみるうたをよみてとよみあつ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

女のこと

今こそはいひしかとかなしてまつのあはれはこのあの手
[illegible]

むこ

[illegible]
つるふくとてこうるきうとうれいはつら
[illegible]

よえ人こと

わうとまくもの[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

わのうのいときうるのもらめるのみハうてもわハうう
ゆきいしの沢
人公なへらめこれハ白毫のまりあるまり粉少しあるう
世中きひつる拙かけうのあるうの紙あるうるる
ゆうたうる仏ゆうる世界少しくこうのうて
仏ゆうる中こうるとうハ仏出ゆうれハ海光る
なけまて
かくけ別のもきせ世中うるとあるゆうて
つゆうるなきるうゆうる仏ゆうれて
いせ

ちうゆうるきうて百姓の人の心をまてうるる
わるるたうていひさハうれるうこのあるれとこ
ゆうるきうてわうれいうふそうとい仏を
仏ハ
高津を高るる毎のうて国て神あれハうやあるハ
ちうううるうるうて西うるて
ゆ
あうるのかうこの紙のうるうれハうるの花も人きうる
ゆきいしの沢
須人不知
間のこうる身のうちもかうて欲うるをまて光る

古今

いせ

世をこめて

在秋中

在恋四

本同

雲のとをたつぬ秋さくとの原ふかくそ分てとうねる
まちかねてとひこさぬふ浦のねをなくなん

いせ

人をねの浦まつとかうてそハ人からねをはりしあふ
こゑをの浦なさうあるひとりとをの浦しとをのはつし
しををもかりくれ

いとのあさをてすしあるのをかくみちかうはうて
わりをの家うて人みつうをしるる

つらゆきの歌

はをのをの四ををうひりを異の白雲をとうねハ

たゝ人にのあるてかをれこれ歌をこうて分
しをんはうをををいふをとしををえるて

ぬちはのたをる

神のをねをハををハををひうう神をうをるを白雲
人のをふつうはうををる　いせ
人をわをしの風の雲をれハこのわをとをを梅ををわて
ををを人ををあいかてをねををををてをはうをる

ふをを人をしの

をををのをを人をををををををみをををををををををををれ
あをを原の海の白ををををの歌をの家をの

きかうとてのすうをはしめとして
あしたゆるとてとるとして
うたねの歌をうたわるる白玉八天とてとつる者ふるわるん
也し
ひりのさうの物をとて家の物語て後
さいしに
とひあるかうとうれ出とてきさハふねとひのつもふるたん
むうしとてとひあてもむうこの四位ふつうハし
さうを
たゝ人に
北里よりとねをとねとてのうれ苦の行をとひやうて

ひとうゆるる以人の作よういうかそとうとひ
てゆるうれてあさうの物の見るつもてつうハし
けるか
浜人ふ和
光蓋の潮をとひハあさ新の物をとあるつ物ふ和
たゝ人に
たゝ人にのかとうゆるさうしのおくふうを
つけゆるる
つゝゆき
てて玉蓋の見ハ見とうてこふとをかりとあつ
ハいしに
小町うあ
世中といひそわ日の位かるもうあのこてそこうとう
むうしわひとうて位とうとうて人の四かとうて位

[illegible]

浮船

山川の音のみきくかはきとは身をなかるるかなる
人のかよひぢとはきくものゆゑにうとくぞ人しる

[illegible]

世中にふるいるかの名をかなとはいとしき
返し　いせ

世中にたえてさくらのなかりせは
春のこころはのどけからまし

源氏物語

[illegible]

つゝかくる井ゐこみてとかつのゆふかけ
返し

さゝふかくふかすかるゝ糸ゆゑにいかなる
返し　ゆふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋の月の一日あのみそら井とこしらへて

[illegible]

いまハとて秋のなかばまうさんとて高てら

十月ハつかの日のしらつゆしのぶてとてふかい

のかうるこれわたいけるつかうる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後撰和歌集巻第十九

離別　羈旅

みちのくにまかりける人にはなむけしける
ときつかはける　貫之

ゆくとてはあふさかやまをこえぬとも
わがこころをばたれかとどめん

はなのかをたづねてまかりける人に
ことづけはべりける　南

はるかにもあるかなるかをたづねてこ
ゝにしもとまりけるはるのやどかな

梅直躬

ちりぬるはなのかをしたづねてこゝに
しもとまりけるはるのやどかな

ものいはずして
ものをのみおもひてまかりける人に
ことづけける　よしみね

ものいはぬこゝろをたれかしるべき
ものをのみおもひてまかりける人に

ゆくさきにてはるかにみやこをおもひ
やりてよめる　よしみね

ゆくさきはるかにみやこをへだてゝ
ものをのみおもひやるかな

この夕ひも神とぞなるとのゝたまふこゝろをいかゝ
京なる人のもとへいとゝ
うしゝてそゝのもとへ
なれハ
むすめ
うらすゝこそしるのとの高の夕ハ消ぬゆきをみるとゝ
いとゝかりなる人をこゝろ
きゝそゝしめてゝとゝ
よゝうをゝとゝるゝ
ゆゝとゝのハなゝて
ゆゝしゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

みつとの後して
月をあるかぬ事をしらせてもつてうんさ
らの名をくまかくる人のあるきてそうく
をうつとかくるる　うえ人しに
別れなの雪毋るかのもハるかをかふてそるれ
しるのさの新たのもすあもものをふくてう
ばくる
いうそ新かさうるの此をあるて毎のきてひぶそハんとそ
ふ
ひし
ひさうの品を新たに雪をて神のうをの雨ふれつて行
ふ
新たをいやのうをくふかうるる
雪をふかうるあるて同川まつハをそかうをつる也
毎ふまかるる人ふさそくつをすとて
をてたうをしみる
神のをそ別ハすをもかつ夜ゆくるいひをまたりとうを
ひし
別ちハ品をすかつ夜きてハのうをそさきふをみる
ばるまかるる人あるきつをしたとて
ををを毎の此しハ神とふ人のをるをの此をて
夜別ちもあのみらのをふくまかるふつう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋ふかく松の色も色ぞまさるぬきもの紅葉
西院像の前文の九月晦ごろ行はる
とゝのへ人ぞぬきつゝ入てしぼる

左馬頭

紅葉をぬきとる色ぞ白つゆ袖にもあまるゆふ九とす

地くふかうはる人ぞつゝしはる

行房 演ノ

紅葉して巻くの八月ねぬきあのよるてゆを

行房

白しぼり

左馬

白しぼりて別ぞ染とる袖をぞぬきてひしき

いと

ぬきとを別みるいとをもハ袖と問るあるはる

よゝ人しぼ

ぬきとるゝとゝて別ぬ凡ぬ袖ぬとゝつき

行房

白しぼ

ぬきみるぬをたゝて中ハぬるの命ぞとゝあ

とゝ人るつゝとゝる

天氏ハ袖ぬこゝるあてゝ宮の世ぞ疑ぬく

あゝてゝとゝくふかうはる人るつゝとゝはる

とゝ花をつゝめゝてこゝる人ぞ海ぬりあるよみみゝとゝ

遠人不知

遠人

あまの天の河をもとめてこゝにくるなの中を渡すゝ
かりくらす人
あまのすうくるあまのこゝろ
見てもうつる月をかなしみ
いと
とゝ
人し
とゝろ
ゝ
ゝ
ゝ

いとしくもあるかなの高山ふかくもうゑる海ぞ
白山のまさきにそなるふみちのうちにたちの
人のつけてつうとしるる

漢人名

えこそとをふうるる白ハ山きつきさきの
のうちのむらきみのあくまかうたう
ゆるるたちまちの高のやうにいひつて
さうかつ地月えれハ二三日ゆるるもし
さてるるき津ふうるふうるうえれハ夜を
つうそそれううるかつて送うゆるる

山里の夏草の高ハ高ものかんなよりつ夜ぬ手すたきよ

中納言家

去ゆくうまかつるかのうるるかのうるるて月の浪乃のうう
尺ゆるるるるるれハ若女房のうちう
出るるるるるる

水しの[illegible]て[illegible]

道[illegible]

四[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]

いせ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小町

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人さそふ月のこゑとをすてゝ秋過ぬとなりぬるを
ちかくうつるかりのこゑ
中ゝて月をなかめて　清もと
てる月のかつらをみきハ天河あまの
さしいしに　辛子洗御製
夢ぢをたゞちにかよふたゞハゝ
京をとふ人ゝにてをしまてまし
きくをみるをりにて九月十日
よゝ人しに
をとゝしてうたいしのつゆ
秋の日はをとゝしてきの流のもとあるけりや
ゝゝん

夢ぢのをとゝハゝのハゝをとゝ
こゝやのしをしいつて清なる毎ハしき
ゝゝるなりをしあるゝ
うゝいわゝ
秋の日はをとゝをこゝやきの流のもとあるけりや
ゝゝん

後撰和歌集巻第二十

賀部　長傷

如八のみこ元良のみこの五十の賀し
けるときよめる　前参議伊衡朝臣

君代のあまつ千年をつもりつゝ
世待あまりけいこ又の宰相の五十の賀し
けるを玄朝臣のもとかゝ衣わしたる
とし　れば　世待あまりけいこ

雲ゐなる天のゐ衣おきてハそ
ゝ人ハ天つ乙女あハさるゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大原やこの里の人少なく侍りしかば
人のかくすすめて
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
八うら物喜ばしく時なきこゝも
てもうれしき
山人のこれなる年ハ天満わくの年をたれとも思
ひなし　御製
年の数つもるまゝにかゝハらぬところをこそ
年の波のうるれ弁うへさを知らるる
天満宮にてうるれ行ないまいるこゝろすれ
きよらに
院　鶴の創とてうるの方より碁盤いと
さうも祈ひなるこいしけのふるうり　金毎清あいさきさ
[illegible]えのうらんとうるう学天満よりつゝ乃限ハ和ゐせよ
西口係のみこれ家のうるて世のみこれ
とうる　右大臣
みたてる松の緑れ松とうたわてる世を祈とうハうん
十二月をうるはのうるすうるうるて
はゝゆゝ
いゝうるわゝとのゝやうるの花のこのゝふるうるふ

哀傷部

わつらふ方まさるをまことにて
東にもとをくなりにけり
たゝ大臣

まことにぬ人とはしるを物のなげきにぬる
あるかのふくにて一條の御大臣

もゝよのあるのうらかとこゝろ
返し
若くしかなくもあるかなとしてこゝろ
たゝ大臣

先帝はかりにて世中さのしるてつくし
しるる
こゝ條の大臣

こゝろのそこにあるこゝろはかなのあるかのこゝろ
返し
藤原敦忠

山科のこゝのあるかなこゝろはかなのあ
時ゝとしの敦忠朝臣
わらはゝ人のなりにけりいふかとこゝろ
しいひとこゝにたゝ
時登敦忠書

別のこゝ程にて侍りけるを亡事の限のなれば

如月のみこのふくすのけらをつかまつる間
のうらる　右大臣
春日のさとなりたちぬ宮ゐ　内侍のすけ
也
花のとをとなりなたちかくかいとをのをとをつくれ
如月のみこのをとをつくれて　伊勢
ちらしをのをとをいきハ人の袖もつきぬるかな　よさ人しる
也
ゆく人をとゝめてふるの別かハいとゝ問てつきもをしらる

先帝おハしまして又のとしの正月一日より
とり給ふる　二條右大臣
後ろ山ふかき谷のうもれてしきまもをとり給ふ
也　三條御息所
のゝ原ゆ色をこゝろてハわたしもかゝるゆ
かりをつゝハしらる　二条右大臣
人のよをとしをかすゆ物のゝハ為ハ雲ふ雲れ
ゆの為まかりて浦すこ行ゆ乃うゝる
かの御ゆゝをきかきつゝをて行ゆる
ゆ雲行て　三條御息所

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なのつるをかてこのる人
天ちそ来ハ一ねん有ける つきをね面ハ潮のうら
人のとふらひるまこうてきたりハるるくも
なくのうるまていひ結れてかえそ乃
りとらるうきつけ結るる

戒法師

るるる人と結とるかるる神ハ結るるふ結れ
かるなうて結るる人のいうるこうりうく結
りるる毎のうる日人のとひて結れハ
よう人とうる

神うくかるる高ふハふるを雨とも知ハうるる
人のいみてくことのいるるうりる日
有るる天ハいつとまちるくりうれの宮の春といハ
新勅撰紀貫之かてなのとしかの新たの
てのるる家うんとそこれうをまかうる和
深しるるつるる清結るる

法西

天ちふふし方ハいつ春ハ白のわるさ花とうる春ハ
花のうるさしるるてふふ春てきたりうるをもて
つけて法とりるまうそ春 和とと人乃

いひそれハ　よろしからぬ

海人の釣する舟の梶をもハ　為の花とそ人ハ見まし

返し

もろともに釣ふる舟にあらぬ身の　長閑の海をみしとそ思ふ

行盛

釣のく海人とそ見ぬる　人とのみ　思ひ　ひとしらぬ

釣する舟の　まかしてとひしらぬ　人ぬく

なりとしひつるとし　仕りける

玄上　新院女

叶のまもの　ちかつ人　まねまハ　夢ふ　ふこね　神そ　のき

返し

出さのの　ちむ　くもわ　ちの　ひ　ものの　ちふも　ものと　ものハ

わ　ち　ものの　ちく　ちる　ふ　ま　わ　ち　る　ち　ま　て

行盛

かけてふ　ふ　ま　の　上　ち　ま　ひ　ま　や　こ　ち　と　ち　ま　の　ち　を　ち　ち　し　ち　ん

いとうひ　ひ　ま　る　ひ　ち　る　の　ひ　ち　ま　ち　ま　ち　ち　る

ち　ハ　ま　ま　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ハ　ち　の　ち

ち　ち　ち　ち

ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　

書の対句かりてのこれたハすのつこうを
の日ゑとゝいひ侍りける　芭蕉翁に

ゆき人のとゝ迄ゑつゝのるハ雪ハ春ゆふハ蛙かな
也し　曽良

こゝゑ来ふ年の春のハ千里ゝ人の別やいくをとゝのふ